

第75回 福岡国際マラソン選手権大会

【出場結果】

実施日 : 12月5日(日)

コース : 福岡朝日国際マラソンコース

平和台陸上競技場～福岡市西南部周回～香椎折り返し(42.195 km)

出場者 : 加藤 平

リザルト:

LAP ()は5 km毎のLAP	加藤
5 km	15'23"
10 km	31'02" (15'39")
15 km	46'54" (15'52")
20 km	1:02'24" (15'45")
ハーフ	1:06'10"
25km	1:18'13" (15'34")
30 km	1:34'14" (16'01")
35 km	1:50'27" (16'13")
40 km	2:07'01" (16'34")
GOAL	2:14'16" 自己ベスト 新電元記録
順位	20位/106名 (途中棄権 26名)

【レポート】

今年の2月に開催された、びわ湖毎日マラソンに続き、数々の名ランナーがオリンピック代表を賭けて熱戦を繰り広げてきた本大会も今回が最後となりました。

伝統のある大会がまた一つ無くなると思うと、スポーツ自体を取り巻く環境が大きく変わろうとしている潮目なのかもしれません。

レースは、今回が最後の大会ということもあり、国内有ランナーが出揃う少数精鋭のハイレベルな大会となり、当社からはびわ湖毎日マラソンで新電元記録(2時間14分42秒)を更新した加藤が、2時間12分台の記録を目標に出場しました。

目標記録を達成する為に、夏場から多いときには 1000 km/月を超える距離を走り込んできた加藤ですが、後半の失速は記録のロスに繋がることから今回のレースプランは前半余裕を持って自身のペース（3分5秒～7秒程度）を刻み、後半もペースを落とさずイーブンでしっかりと走り切る戦略でレースに臨みました。



目標記録を設定し、自身のペースを刻む加藤

エリートランナーの多くは事前に設定されたペースメーカーについていくレースを展開した為、前半は先頭集団から離れる展開で着実にラップを刻み、中間地点（ハーフマラソン）を1時間6分10秒と予定通りのタイムで通過しました。



2時間12分台を目標に冷静にラップを刻む加藤

中間地点を過ぎても加藤の足取りは衰えず、30 kmまでは設定通りのラップを刻み、先頭集団から落ちてきた選手を次々に抜き去って目標記録達成も十分に視野に入ってきました。



脚の痙攣でペースダウンとなるも最後までゴールを目指す加藤

一方で、この時間帯から徐々に気温が上昇し、暑さが選手たちの体力を奪っていく厳しい状況へと変化していきました。

加藤も30 km過ぎまでは当初予定通りのレースプランで順調に走ってきましたが、やはり暑さが影響したのか、35 km手前で脚の痙攣を起こすアクシデントに見舞われて、ペースダウンを余儀なくされる苦しい展開になりました。

しかし、38 km地点で一度立ち止まって脚の状態を回復させると、あとは気力でゴールまで走り切り、結果は総合20位となる2時間14分16秒と、自身の持つ新電元記録を再度更新する自己新記録でゴールしました。



自己新記録の更新おめでとう！！

目標としていた2時間12分台とはなりませんでしたが、後半にかけて暑さを感じる厳しいコンディションで多くのエリートランナーが失速する中、ペースダウンを最低限に抑え、自己新記録を更新し、堂々の20位を確保できたのは日々のトレーニングの賜物だと感じます。

次戦のレースは3月に予定される東京マラソンとなり、次回こそ2時間12分台の目標タイムクリアを目指してトレーニングを積んで参りますので、目標達成にご期待下さい。

今後とも、皆様の温かいご声援をお願い致します。

以 上